

## 2018合同教育研究全道集会 分科会研究課題

分科会	研究課題
1	国語教育
	(1)国語教育の現状と中心課題 ① 子どもの学力の実態と国語教育の現状 ② 改訂習指導要領・道徳教育の強制など教科書の問題点と教育課程づくり・自主教材の内容充実 ③ 研究の組織化と日常のとらえ (2)言語教育—小・中・高の関連を明確にして ① 言語の基礎(音声・文字・語彙・文法・漢字漢語教育など)をどう教えるか ② 子どもの言語の学力問題 (3)言語活動教育 ① 読み方教育・文学教育(文学的文章・現代文学・古典文学・説明的文学・評論教材)の内容と指導法 ② 作文・つづり方教育(韻文・小論文などを含む) ③ 自主教材の発掘・研究(憲法の教育・平和教育・北海道の文学) (4)読み聞かせ・読書活動
2	外国語教育
	(1)外国語教育の現状と課題 — 児童生徒の学力の実態・外国語教育の現状と今後をとらえ、実践と研究を明らかにする ① 外国語教育の目的と全体構造を明らかにする ② 学習指導要領の問題点を実践的・理論的に明らかにする ③ 新たに導入される小学校での評価を含め、評価方法と課題を明らかにする ④ 小学校での外国語活動の実態と課題を明らかにする (2)外国語教育の内容と方法 ① 言語体系(音声・文字・語彙・文法)の教育内容と方法を明らかにする ② 言語活動(音声コミュニケーションと文字コミュニケーション)の教育内容と方法を明らかにする ③ 取り上げる言語材料の選定・掘り起こしを行い、その指導過程を明らかにする
3	社会科教育
	(1)主権者を育てる社会科・地歴科・公民科の授業や教育課程をどのようにつくるか (2)生活感覚につなげ実感をわきおこさせる教材をどう開発するか (3)背景となるであろう諸科学・学問とどうつなげるか (4)新学習指導要領の新科目等にどう取り組むか
4	数学教育
	(1)「数学は本当におもしろいんだなあ」という気持ちにさせるにはどうしたらよいか (2)楽しみながら、数学の世界が見える教材にはどんなものがあるか (3)子どもの学習意欲をもち上げる数学教育とはどんなものがあるか
5	理科教育
	(1)子どもが楽しみながら自然科学の基礎を着実に学ぶことができる授業をどのようにつくるか (2)子どもと教師の意欲を引き出す、わくわく実験やものづくり教材をどのように開発するか (3)「地域の自然」をどのように教材化するか (4)「自然科学教育が育てる学力」を身につけることができる教育課程をどのようにつくるか
6	美術教育
	(1)図画工作及び美術の授業実践をもとに、子どもたちが身につけることができる学力についての研究を深める (2)子どもたちによる表現や鑑賞を通じ、主体的に自己の感性を高め、達成感や感動を味わうことのできる美術の授業実践について研究を行う
7	書教育
	(1)正しく美しい文字を書きたい、思いや感情を込めた文字表現をしたい、自己の存在を何らかの形で確かめたいという子どもたちへの指導・援助のあり方を探る (2)「生きる力」や「自己肯定感」について、子どもたちの作品を通じて考える (3)子どもたちをとりまく今日の社会や教育の現状を検討し、子どもたちの「育ち」にとって、書教育がもつ可能性について検討する
8	音楽教育
	(1)音楽教育の問題点とその解決の方向性を明らかにする (2)生きいきとした音楽の授業はどうしたらつくれるのか そのための教材、子どもの見方、目標の設定と評価、授業方法を実践的に解明していく (3)主体的な全校音楽文化活動のあり方とその実践づくり (4)子どもの成長発達に即した音楽教育の展望を明らかにする
9	技術・職業教育
	(1)技術・職業教育をめぐる状況 ① 生徒をとりまく状況(学習・生活・進路) ② 教育条件の整備と北海道の教育政策 ③ 学校間連携・地域との連携 ④ キャリア教育と技術・職業教育 ⑤ 高大接続および専門職大学 (2)教育実践と学校づくり ① 中学校の教育実践(技術科) ② 高等学校の教育実践(専門学科・総合学科・普通科) ③ 職業教育・職業訓練と学力保障

10	家庭科教育	<p>(1)総合的に学ぶ家庭科で子どもが主体となる学びをどうつくるか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの生活の現状をどうとらえるか</li> <li>② 小・中・高の現状はどうなっているか</li> <li>③ 家庭科における子ども主体の学びをどうつくるか</li> </ol> <p>(2)これからの家庭科教育</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学習指導要領・教科書と家庭科</li> <li>② 家庭科教育に関わる条件整備</li> </ol>
11	保健・体育教育	<p>《学校保健分散会》</p> <p>(1)学校保健の実践的課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの健康・発達を保障する健康診断をどう創造していくか</li> <li>② 健康認識をどう育てるか</li> <li>③ 様々な発達課題に向き合う子ども・青年の自立をどう援助するか</li> <li>④ 自主的な保健委員会活動をどう育てるか</li> <li>⑤ 民主的な学校保健づくりと地域・父母との連携</li> </ol> <p>(2)学校保健の現状と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの健康・発達実態とその課題</li> <li>② 健康診断、予防接種、スクールカウンセラー、特別支援教育のあり方、いじめ問題をめぐる状況の交流</li> <li>③ 保健指導(性教育を含む)の実践交流</li> <li>④ 脱ゆとり教育・学力偏重主義が子どもたちに与える影響と課題</li> <li>⑤ 学校保健をめぐる教育条件と養護教諭の権利問題の現状と課題</li> <li>⑥ 全校配置・複数配置運動前進のためのとりくみ</li> </ol> <p>《保健体育分散会》</p> <p>(1)教育課程の編成と改善・充実</p> <p>(2)保健体育の授業研究、実践交流と今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 体育の授業実践の交流</li> <li>② 誰でもできる授業の交流</li> </ol> <p>(3)部活動・少年団・体育的行事の実践交流</p>
12	生活科・総合学習	<p>(1)「総合」の授業づくりにおけるアプローチとその成果についての検討</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学習者の要求(学びたいこと)と教師の要求(学ばせたいこと)の統一にどうとりくんだのか</li> <li>② 目標設定における知識・技能・情意の統一にどうとりくんだのか</li> <li>③ 子どもにどのような力がついたのか、その検証はどのように行っているのか</li> </ol> <p>(2)「生活」の授業づくりにおけるアプローチとその成果についての検討</p> <p>— 特に体験によって学ばれたことを、具体的に子どもの学習の成果から厳密に検証を図る</p> <p>(3)総合・生活科と、学校づくりや教育課程との関係の在り方を探る</p> <p>(4)私たちが、総合・生活科でつきたい「学力」とは何か?</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の学力とは何か</li> <li>② 誰の、何のための学力か</li> </ol>
13	道徳教育	<p>小学校では「道徳科」が教科書を使用して全面実施になり、中学校でも採択教科書が決まり、「道徳科」の指導計画づくりが進められています。「道徳科」に関わる課題やその取り組みの困難さも浮き彫りになって来ています。</p> <p>「特別の教科 道徳」が特定の政治的意図とそれに基づく圧力によって出現したことで、道徳的な問題を考えたり実践することが子どもたちの発達・人格形成にとって積極的な意味があることとの区別が必要です。子どもたちの道徳性を育むさまざまな教育活動のとりくみを、発表レポートにしっかり光をあてて、その内容を尊重した交流・論議を行いましょう。</p> <p>(1)はじめに</p> <p>共同研究者から、分科会の経過、今年の課題、主な論点などについて基調提案を受けます。そのあと、参加者の地域・学校での状況を交流します。</p> <p>(2)道徳教育実践の交流</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「道徳科」の授業実践の発表と交流       <ol style="list-style-type: none"> <li>i 小学校 ii 中学校 iii その他</li> </ol> </li> <li>②合科・横断的・全面主義としての道徳教育実践の発表と交流</li> </ol> <p>(3)道徳教育の全体計画や「道徳科」の年間指導計画などに関わる発表と交流</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの姿と道徳教育の諸計画づくり・実践づくり・運営体制などについて</li> <li>②「道徳科」をめぐる校内外研究のとりくみと課題</li> </ol> <p>(4)その他、道徳教育に関わる参加者の意見交流</p>
14	学校と家庭の生活指導	<p>(1)北海道の各地域に見られる子どもの生活状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもと家庭の「貧困」状況と子どもの発達について考える</li> <li>② 学力テスト体制のもとでの『学力』向上政策、管理を徹底するゼロトレランスによって子どもたちの発達はどうなっているのかを考える</li> </ol> <p>(2)安心できる居場所づくりと自信を生み出す活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「学校」「教室」に安心できる居場所をどのように作り出したのか</li> <li>② 子どもたちそれぞれの発達要求にもとづいた自信を生み出す活動をどのように作り出したのか</li> </ol> <p>(3)子どもの現実と響き合う自治活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① クラスづくりや学校づくりの中で、子どもの自治活動をどのように作り出したのか</li> <li>② 『遊び』や『学び』を通して、平和的で共感的な世界をどのように作り出したのか</li> </ol> <p>(4)子どもをまん中においた共同づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子育て・教育の悩みを語り合う共同、子どもの発達を支援するネットワークをどのようにつくるか</li> <li>② 地域に求められる学校づくりをどのようにすすめるか</li> </ol>

15	教育条件確立の運動	<p>(1) 国と地方、地方自治体の教育予算の問題点と子ども・教育への影響</p> <p>① 義務教育費国庫負担金や就学援助費の削減、学校統廃合・学校現業職「委託化」・「道立学校支援室」設置とその影響、私学助成の抑制と実態など</p> <p>② 「貧困と格差」拡大が子ども・教育に及ぼす影響、「高校就学支援金制度」問題、給食費・教材費などの学校徴収金の実態など</p> <p>(2) 教育費無償化、ゆきとどいた教育を求める運動の進め方</p> <p>① 少人数学級の実現、教職員定数増と労働条件の改善</p> <p>② 子どもの学習権と地域の教育を守る運動</p> <p>③ 子ども・青年の修学保障、私学助成の拡充など教育予算充実の運動</p>
16	教育課程・学校づくり	<p>(1) 子どもの人格形成を保障する教育課程・学校づくりの課題</p> <p>① 確かな学力と発達を保障する授業</p> <p>② 子どもの自治能力を育むHR活動・生徒会活動</p> <p>③ 憲法・子どもの権利条約にもとづき、子どもの人格形成を保障する教育課程</p> <p>(2) 子ども・保護者・教職員・地域による共同の教育課程・学校づくりの課題</p> <p>① 教育の自由や教職員の同僚性を回復するために、学校の閉塞感、教職員の多忙化や苦悩をどう跳ね返していくか</p> <p>② 保護者・地域の参加による共同の教育課程・学校づくりのシステムをどうつづけていくか</p>
17	地域における子育て・学習運動	<p>(1) 学校・地域における新たな動き</p> <p>① 新自由主義(市場原理)に基づく教育体制の再編、効率主義の強化と格差の拡大(学校教育法、社会教育法の改定など)</p> <p>② 市町村合併と学校統廃合による教育施設の格差拡大</p> <p>③ 学校教育における学力と評価「地域の教育力」の問い直し</p> <p>④ 「子ども・子育て支援新制度」導入に伴う課題</p> <p>(2) 地域における子育ての共同をどう広げるか</p> <p>① 子育てについての親たちの悩み</p> <p>② 子育てと学校教育の接点をどうつくるか</p> <p>③ 地域における子育てネットワークをどう広げるか</p> <p>④ 地域における子育ての共同と公的支援</p>
18	地域と学校の文化・スポーツ活動	<p>子どもたちが実際に活動している地域の文化・スポーツ団体や学校の部活動においては、必ずしも十分な活動条件や環境が整っているとは言えず、様々な問題点や課題と向き合いながら活動をしなければならない状況にある。</p> <p>本会では、地域や学校現場での実践例を通して討論を深め、子供たち、保護者や家庭、指導者、自治体や関係機関など、様々な視点から問題点や課題を明らかにすると同時に、ひとつでも改善・解決の糸口を見い出せたら…と考えている。</p> <p>(1) 子どもたちや保護者を取りまく「様々な環境や条件」の現状と変化、「家庭生活」や「地域との関係性」の現状と変化、さらには「日本の社会状況」の変容を明らかにしながら、文化・スポーツ活動における子どもたちの嗜好や意識の変化との相関関係を分析し、そこに見えてくる問題点や課題、解決策などを探る。</p> <p>(2) 地域(自治体)や学校の活動環境の現状</p> <p>「活動環境の整備」という視点から、地域あるいは学校における活動状況と問題点などの報告を元に、今後に向けての課題や改善策などを探る。</p> <p>(3) 指導者の現状</p> <p>文化・スポーツ活動には「指導者」の存在が欠かせないが、地域の活動においては、専門的な知識・技能を持った方々の「ボランティア」によって支えられているのが現状…と言えるのではなかろうか。一方、学校現場では、部活動は『業務外』としながらも、専門的な知識・技能を持った人材が顧問になるケースは減少傾向にあり、逆に種目未経験者が顧問になったことによる心的ストレス教員の増加が報告されている。</p> <p>また、部活動は「超過勤務の温床」や「勝利至上主義」「体罰・セクハラ問題」等の問題点も指摘されているところであるが、部活動の趣旨である「人間的成長」や「進路の可能性の拡大」など、「教育的効果」を発揮している面も多分にあることから、そのジレンマの解決に向けて、更なる議論を期待したい。</p>
19	国民のための大学づくり	<p>(1) 政府の大学に対する統制・再編政策、高大接続と大学改革の動向、それらが教育に及ぼす影響を明らかにする</p> <p>① 高校生の学力と高校教育の変化、大学教育への影響</p> <p>② 大学入試制度改革の動向(「学びの基礎診断」・「大学入学共通テスト」・個別試験の改革、調査書利用の拡大、受験産業の影響)</p> <p>③ グローバル企業の要求と経済政策への従属を強める大学政策の動向(「グローバル人材」「専門職大学」「文系廃止」)</p> <p>④ 目標・評価と経営改革を通じた統制(「ガバナンス改革」)は、教育・研究の現場に何をもたらしているか</p> <p>⑤ 大学統廃合(法人統合、研究・教育組織再編)の動向と問題点</p> <p>⑥ 教員養成・研修政策(教員養成・資格制度、免許更新制、教職大学院)の動向と問題点を解明する</p> <p>(2) 国民のための大学創造のとりくみ、実践的課題</p> <p>① 科学者と大学の社会的責任—研究不正、東日本大震災・福島第一原発事故の教訓</p> <p>② 誰もが学ぶことのできる高等教育の創造(無償高等教育の実現、公費支出の拡充、生涯教育との連携)</p> <p>③ 望ましい高大接続のあり方の探究(大学との関係を視野に入れた高校の学習・進路指導、高大連携)</p> <p>④ 学生・教職員協働による研究・教育の創造</p> <p>⑤ 学生の進路と社会的権利の保障</p> <p>⑥ 教職員の賃金、健康、労働条件を守るとりくみ</p>

20	障害児・障害者の教育と福祉	<p>(1) 小学校・中学校における特別支援教育の実践と課題  ① 通常学級における特別な支援や配慮の必要な子どもの教育と課題  ② 通常指導教室の教育の現状と課題  ③ 障害児学校の教育の現状と課題</p> <p>(2) 障害児学校における教育実践と課題  ① 乳幼少期から学齢期における相談・保育・福祉の現状と課題  ② 訪問教育、医療ケア、重複障害児の教育の現状と課題  ③ 寄宿舎教育の役割と教育実践</p> <p>(3) 青年期における特別な支援や配慮の必要な子どもの教育および就労・社会参加に関わる課題  ① 「高等部の在り方」報告に関わる課題  ② 高等養護学校の教育実践、進路保障、専攻科の課題  ③ 通常高等学校における特別な支援や配慮の必要な子どもの教育の現状と課題  ④ 自立支援法の問題点と自立を可能とする生活保障の問題  ⑤ 卒業後の新たな取り組みの実践と課題</p> <p>(4) 交通課題  ① 教育計画と教育評価の諸問題  ② 子どもの発達・ねがいの応じた教育実践</p> <p>※1日目は前半を北海道教育大学釧路校の戸田先生と特別支援教育における「集団づくり」について実践交流をし、後半は札幌学院大学の二通先生と「北海道教育育成指針」の内容を自分たちの実践に生かすというテーマでお話いただきます。</p>
21	環境・公害と教育	<p>(1) 地域の自然・環境問題について、自然保護教育がどう行われ、子どもたちや住民にどう受け止められているのか、生物多様性、外来種・生態系、希少種、自然の豊かさ、自然体験などをキーワードに課題を深める。  自然と人間が離れてしまった状況の中で、自然への畏敬の念を育み、生命を慈しむ心情を育てるにはどのような教育が必要かについて考える。</p> <p>(2) 台風の早期発生、大型化、異常な進路や局所的豪雨、猛暑など災害を引き起こす異常気象をもたらしている気候変動の実情と原因について、また地震や火山噴火などともしなやかに共生しつつ被害をいかにして軽減するかについて考える。</p> <p>(3) 気候変動の原因となっていると考えられる地球温暖化問題について、学校・地域でどう取り上げられ実践されているのか、現状と課題を考える。</p> <p>(4) 福島の原発事故から7年余り、事態は現在も全く収束しておらず、我々に大きな問題を投げかけ続けている。  深刻化する汚染水問題、原発の安定的な収束、放射能汚染にどう対処するのか、原発に代わるエネルギーは何か、これらの問題に正面から向き合い、議論する。</p> <p>(5) 教育・科学運動や教育実践の中で、教師・研究者・地域住民の横の連携、ネットワークの現状は、どのようになっているのか。連携を深める仕組み作りや課題を明らかにする。</p>
22	平和・憲法、人権・民族と教育	<p>《平和・憲法分會》  森友加計問題・そして北朝鮮の脅威に振り回されたこの一年、改憲論議はいったん棚上げ状態になった感があります。しかし安倍長期政権は余命残りわずかと言われながらも小康状態を維持しています。油断のならない時期を迎え、この「改憲の動き」とからめ「平和」への取り組みをどう構築していくのか、その実践と理論を学びあいます。</p> <p>(1) これまでの「戦争のできる国作り」への動きに対する私たちの理論立てをどう進めていくのか。  (2) 「日中戦争80年」を経て、日本の「文化としての平和」をどのように継続していくのか。</p> <p>《人権・民族と教育》  (1) アイヌ民族その他の民族的少数者が日本社会の中で直面している課題を明らかにし、その克服のすじみちを考えます。  (2) アイヌ民族その他の民族少数者の歴史と現状にかかわる課題を、教育実践としてどう取りあげたか、その成果を交流します。  (3) 国際社会や国内情勢の中で、少数者であるために、差別・無視・排除など様々な「人権」侵害に遭遇している人々の例について理解を深め、「人権」感覚の深化と、つながり合う行動への契機を探ります。</p>
23	子ども・青年の発達と教育	<p>(1) 今、子ども・青年が生きる場(地域・家庭・学校など)はどうなっているか。  ① 子ども・青年の文章などから、「声」を聴きとり、実態をつかむ。  ② 多様な発達援助職(保育士、小学校・中学校・高等学校教員、特別支援学校教員、フリースクール指導員、専門学校教員など)の実感から学び、交流しあう。</p> <p>(2) 子ども・青年の発達を支え、援助するとはどういうことか。  実践報告に学び、共有・分析し、発達援助のあり方を総合的に検討する。</p> <p>(3) 子ども・青年の発達援助に関わる人々の困難と希望について話し合う。  学校教育だけではなく、幅広い発達援助職に携わる方々との対話を通して、連携と協働のあり方を探る。</p> <p>* 乳幼児期から青年期までの長いスパンで、子ども・青年の発達をとらえ、考えることのできる、この分科会の価値や独自性を尊重し充実した議論をしていきたい。</p>

24	不登校・登校拒否・高校中退	<p>(1) 不登校・登校拒否・高校中退・ひきこもりの現状と背景をさぐる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校現場の競争原理と居づらさ</li> <li>② 子どもの貧困、親の経済格差等の現実</li> <li>③ 不登校への指導＝学校復帰、「教育確保法」で何が起きているか</li> </ul> <p>(2) 居場所の保障と援助を複合的に検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「行きたいのに・・・」なぜ不登校になる</li> <li>② 思いを受け止める居場所と全道のフリースクール等の活動</li> <li>③ 全道親の会の活動とつながりの課題</li> <li>④ 「人生の主人公としての自分の確立」「ただ存在するだけの自分」でいられる場所と仲間づくり</li> </ul> <p>(3) 青年期以降の支援や公的な連携を求める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ひきこもり者へのアウトリーチ</li> <li>② 就労、公的福祉支援の現状を語る</li> </ul>
----	---------------	--